

先ずは新聞の記事を読みます。
海岸で貝殻を探していたら…6歳の男の子が
見つけた「史上最大のサメの歯」

英国東部サフォーク州の海岸で貝殻を集めていたサミー・シェルトン君(6)は先日、異様なものが砂浜に埋まっているのを見つけた。手に取ってみるとズシリと重い。形状は歯だが、驚くほどの大きさである。

英イースト・アングリア大学の生物学者ベン・ギャロッド教授は公開された写真から、史上最大の捕食性のサメ、メガロドンの歯である可能性が高いと述べる。(中略)

メガロドンは今から230万年前から360万年前にかけて生きたサメで、捕食性のサメとしては世界最大。現存するホホジロザメの約3倍の体長だったといわれている。同教授は歯を含めて、メガロドンの痕跡を長年探し続けてきたが、発見したことはなかった。(後略)
(日刊ゲンダイデジタル版2022.5/12の記事)

次は日本の小学生の記事。

散歩中に草むらで黒光りする小石を拾ったら
…4億年前のアンモナイトだった！沖縄の小
6が鋭い眼力

散歩中に大発見。沖縄県読谷村に住む日谷真歌(まご)さん(11) Ⅱ 渡慶次小6年Ⅱがこのほど、瀬名波の草むらで、およそ4億年

前の古生代デボン紀のものとみられるアンモナイトの化石を発見した。20日、南城市玉城のおきなわワールドで発表会が行われ、鑑定したおきなわ石の会会長で、沖縄石の文化博物館の大城逸朗名誉館長は「物事を注意深く見る子どもの目だからこそ見つけられた。『イーグルアイ(鋭い眼力)』と呼びたい」と興奮しきりだった。(南部報道部・我喜屋あかね) Ⅱ 後略 Ⅱ (沖縄タイムスデジタル版2022.6/24の記事)

「イーグルアイ」、すてきですね。君たちの輝く目と鋭い眼力で、夏休み中、新聞記事に載るような大発見があるとうれしい限りです。



さて、イーグルアイとは逆に、遠くの物が見えにくくなることを「近視」と言います。学校でも、君たちの近視の進み具合を調べるために、定期的に「視力検査」をしていますね。NHKなどのニュースによると、文部科学省でも子どもの視力低下を正確に調べるために、2021年、各地の小中学生860人の、目の表面の角膜から一番奥の網膜までの奥行きⅡ「眼軸」の長さを調査したそうです。

大人の眼軸の長さは平均24ミリ前後。今回の調査で、小学校六年生男子の平均が24.2ミリ、女子が23.75ミリだったそうです。つまり、小学校六年生の時点で眼軸の長さが大人の平均に

達していて、早い年齢で近視が進行している傾向があることが分かったのだそうです。

2020年のデータでは、裸眼視力(眼鏡無しでの視力)が1.0未満の小学生は37.2%。中学生は58.29%で、過去最大。立教小学校で言うと720名中270名の人が、視力1.0未満となるという計算です。オーストラリアの研究グループによると2050年、世界人口のおよそ半数に当たる48億人が近視になる予想だとか…。

「この予想はよそう！」と、なるためには、次のことに気をつけるといいそうです。

① 30分に一回は、パソコン、タブレット、スマートフォン画面から目を離して、20秒以上遠くを見る。

② 一日2時間以上日の光を浴びる事。直射日光でなくても、窓際で光を浴びるのでもい

いそうです。
③ 寝る一時間前からは、パソコン、タブレット、スマートフォンを見ない。

もうすぐ夏休みに入ります。みなさん、イーグルアイを維持するために、①②③を意識して実行してみてください。また、六年生は、「デジタルシチズンシップ」について学習したはず。SNSやネット上のゲームなどを利用するにあたり、「情報技術の利用における適切で責任ある行動規範」についても、この夏、保護者の方とじっくりと話し合ってみることもお忘れなく。
(立教小学校校長 田代 正行)